

「ケア」の臨床哲学 その理論と実践

研究代表者：寺田俊郎（哲学科）

共同研究員：武田なほみ（神学科）、大橋容一郎（哲学科）、崎川修（哲学科）、早川正祐（哲学研究科）、鈴木守（保健体育研究室）、
浅見昇吾（ドイツ語学科）、丹木博一（短期大学部）

研究目標

この研究は、現代の人間社会を支える教育、医療、福祉などの「ケア」の現場における様々な問題に対して、哲学的な知がどのようにこたえうるのか、その可能性を**理論的基盤と実践的方法の両面から探究する**試みです。哲学、倫理学の世界では「ケアの倫理」への注目が高まりをみせていますが、それらはいまだ現場の抱える困難を「後追い」的に分析、評価することにとどまり、その進んでゆくべき方向性を示すことはできていないように思われます。また、現場での実践においても、日々の業務の忙しさのなかで、ケアすることの意味や目的がたんなる「建前」「飾り文句」になってしまっている場合が少なくありません。重要なのは、**哲学の世界と現場の実践**が「それぞれの理屈をこねる」ことではなく、両者を「つなぐ」ための「言葉と場所」を作り出す努力ではないでしょうか。さしあたって私たちはそれを「<ケア>の臨床哲学」という名前で呼ぶことにしました。「臨床哲学」は従来の哲学のような、概念分析と理論構築による本質の探究とは違い、**私たちの生の「現場」に立って耳を傾け、対話を重ねながら、知の枠組みを刷新し、それを世界へと還流させようとする、哲学の姿勢**のことです。この方法論は、ケアの理論と現場の橋渡しにふさわしいものだといえますが、同時にわたしたちの念頭にあったのは、「臨床哲学」という方法の「根」であるものこそ、「ケア」なのではないか、という「見立て」です。臨床哲学的方法を「ケア」に結びつけてゆくことと同時に、ケアを論じることから「臨床哲学」という、これからの可能性に満ちた方法論を「受け取り直す」試みを、ここ東京から始めたい、と考えています。（当研究ウェブページより）

研究活動

定例研究会：テーマと提題者一覧

「なぜ〈ケアの哲学〉なのか」 早川正祐（共同研究員）／「セルフケアに対するケア」 丹木博一（共同研究員）／「養護というケアのあり方——養護教諭の子どもたちへのかかわり」 大谷尚子（聖母大学看護学部教授／養護学）／「小児科で子どもと家族を支えること：先端医療と人の心」 横山恭子（上智大学総合人間科学部教授／臨床心理学）／「ケアの哲学 ー序論」 大橋容一郎（共同研究員）／「<教育>の文脈において<ケア>が提示する論点」 尾崎博美（新渡戸文化短期大学生活学科准教授）／「記憶を未来に：高齢者ケアの経験から」 黒川由紀子（上智大学総合人間科学部教授）／「看護の協働実践を記述する」 西村ユミ（首都大学東京健康福祉学部教授）

公開ワークショップ：テーマとゲスト一覧

「誰のためのケアか？—当事者研究の現象学と自立支援」／河野哲也（立教大学文学部教授）・コメンテーター：大塚晃（本学社会福祉学科教授）／「〈ひきこもり〉支援から見るケア」 田中俊英（NPO 法人 淡路プラッツ代表／青少年自立支援）・コメンテーター：寺田俊郎（研究代表者）

哲学カフェ：テーマとゲスト一覧

哲学カフェ@SOPHIA vol.1 <大震災と「私たち」>／哲学カフェ@SOPHIA vol.2 <大震災と「私たち」2>／哲学カフェ@SOPHIA vol.3 <子どもの支援活動を通じてケアを考える>ゲスト：坂上和子（NPO 法人「病気の子ども支援ネット遊びのボランティア」）／哲学カフェ@SOPHIA vol.4 「ケアの哲学の未来を展望する—フェミニズム・当事者研究・哲学」ゲスト：池田喬(東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター」 特任研究員)／哲学カフェ@SOPHIA vol.5「ケアを考え直す——臨床哲学のまなざし」

ウェブページ：設営と運営

<http://pweb.sophia.ac.jp/tterada/care/index.html> 研究の趣旨、活動報告の他、ケアをめぐるエッセイ（試論）を4篇掲載。

研究成果

- （1）ケアの哲学的・人間学的考察：ケアは人間存在の基底を成し、人を人であらしめ、われわれの日常を絶えず支え、〈あなた〉と〈わたし〉の関係のなかで成立するはたらきである（ケアの基底性、根源性、日常性、相互性、二人称性）。したがって、専門的ケアに限定されない。
- （2）ケアの哲学的・人間学的考察の意義：ケアをめぐる哲学的・人間学的考察は、ケアの現場にかかわる人びとにも共有され、その人びとをつないでケアをめぐる新たな知を紡いでいくことができる。
- （3）ケアの知を共有し深める方法としての哲学的対話：ケアの現場にかかわる人びとがケアをめぐる考察を共有し深めるための方法として哲学対話は有用である。その方法を当事者研究を一つのヒントとして整備することを今後の課題とする。
- （4）ケアをめぐる学際的ネットワークの構築：ケアをめぐる哲学的・人間学的考察をいわばプラットフォームとして、教育、医療・看護、社会福祉、宗教などの諸分野をつなぐ探求のネットワークを構築していくことができる。その構築を今後の課題とする。
- （5）臨床哲学的研究の一環として、本研究の代表者・共同研究者は、全学共通科目「ケアの倫理学」やコミュニティ・カレッジ講座「ケアの臨床哲学」などでも講師を務め、ケアの知の共有・活性化を図った。